

有料化で  
2階ガラガラ

# 駐輪場無料化 拡大で[放置]解消を



南行徳公園に150台以上も置かれた自転車(上下)



駅に一番近い南行徳第二駐輪場の2階はガラガラ

行徳地域の各駅周辺の放置自転車台数(市の資料より)

	2005年11月 午前9～10時	同日 午後2時半～3時半
行徳駅	326台	504台
南行徳駅	411台	658台
妙典駅	420台	581台

駅に一番近いのに利用率の低い駐輪場(有料・2階)

駐輪場		収容可能 台数	利用台数	利用率
行徳第一 (西友横)	1階	2150台	1466台	68%
	2階	1750台	4台	2%
行徳第二 (南行寄り)	1階	1000台	1018台	101%
	2階	850台	169台	19.8%
南行徳第二 (中村屋横)	1階	400台	409台	102%
	2階	300台	58台	32.6%

かつて、行徳駅・南行徳駅周辺は放置自転車全国ワースト2位、9位で、歩道を通り抜けるのが危険な状況でした。

谷藤市議と南行徳のまちづくりを考える会は、現地調査や市民集会を重ね、駐輪場の増設を市や営団本社に申し入れるなどして、駅周辺の自転車放置はだいぶ解決してきました。

しかし、今年に入り、市民の方から、「南行徳駅近くの公園に自転車がいっぱい置いてある」との忠告をいただき、さっそく4月18日現地調査を行い、5月12日、市に改善の申し入れを行いました。

## 公園には自転車153台 駐輪場2階はガラガラ

4月18日午前10時～十一時にかけて行った現地調査の結果、南行徳公園に放置自転車153台、そして駅に一番近い駐輪場(有料)の2階はガラガラ、ちょっと離れていても無料になっっている駐輪場はいっぱいです。駅に近いほど利用料金を高かった市の対策の問題点がありました。

**撤去2万台、引き取り料4千円で回収率33%**  
街頭には市から委託された指導員が街頭指導や放置自転車の移動・撤去も行っています。撤去台数は市全体で年間約2万台、引き取りはそ

のうち33%、それ以外は破砕をし、新年度からは海外に売却するとのこと。引き取るために4000円かかることが取りに行かない大きな理由です。指導員さんや駐輪場管理をしている方からも、「撤去した自転車の保管にもお金がかかっている。やっぱり、無料駐輪場を増やしたほうがいいのでは」という声が寄せられました。有料化では根本的な解決にはなりません。



5月12日 自転車対策課に申し入れ

**放置自転車対策に関する改善の申し入れ**  
市川市長 千葉光行様  
放置自転車対策に市川市として真剣に取り組む、行徳地域でも駐輪場が必要台数分確保されたことは理解しております。  
しかし、駅に近いにもかかわらず有料化されているところの2階は利用が伸びず、近くの公園に山になっっている状況です。また、駅周辺の撤去もかなり多いということ。公園や路上に置かないで空いている駐輪場へと持つていけるよう、さらなる対策を講じる必要があります。そこで以下申し入れます。  
一、利用の伸びない駐輪場を無料にし、空いている駐輪場へ置くよう案内すること  
二、撤去した自転車の回収料金を引き下げる。  
二〇〇六年五月十二日  
南行徳のまちづくりを考える会



日本共産党  
市川市議会議員  
浦安市川市民病院  
議会議員

# 谷藤利子の市政報告

発行責任者: 谷藤利子 2006年5月20日 NO35  
連絡先: 自宅398-5948 携帯090-7250-7852 メールアドレス: tanifuji5948@hotmail.com

無料法律相談

6月6日(火)  
市川市役所内、日本共産党控入室  
にて。予約制です 334-  
1111(内線)4591

## 浦安市川市民病院運営協議会から「答申」 「民営化」路線くつきり…これからが正念場

### 「答申」全文

#### (1) 浦安市川市民病院の地域での位置づけ

自治体病院は従来、へき地などの地域医療の確保・向上や特殊医療などを担う役割を果たしてきたが、地域の医療環境や交通網の整備など時代の変化に伴って自治体病院の果たす役割が大きく変わってきている。とりわけ、都市部にある自治体病院の場合には、この傾向が顕著であるといえる。

浦安市川市民病院でも、周辺医療機関の整備拡充に伴い、自治体病院としての役割を見直す時期にきている。今後、一層の病診連携・病病連携を図りつつ、浦安市川地域で必要とする医療を考慮しながら、診療科目や規模も含めて検討する必要がある。

診療科目やその整備にあたっては、高齢化に対応した医療、小児を含む救急医療、を重点項目とすることが望ましい。

#### (2) 浦安市川市民病院の経営のあり方

病院の運営方式は、「民設民営」はのぞましくないという少数意見があったものの、病院をとりまく環境の変化への柔軟な対応、赤字体質からの脱却、市民の税金の効率的な活用を図るため、「公設民営」「民設民営」を視野に入れ検討する必要がある。この際、民が自治体の意向に沿うような良質な医療サービスを提供するため、地域医療として必要となる「政策的医療」への補助を行うなど、運営の仕組みを工夫していくことが必要である。

「病院組合」による運営については、一部事務組合が設立された昭和26年当事に比べて両市の状況は著しく変わってきており、各々個別に医療政策を展開するに十分な状況であり、「組合立病院」という形態そのものを見直す時期にきている。

「民設民営」の場合は開設者の変更となり、「病院組合」は不要となるが、「公設民営」においても組合の役割は財産管理となり、存在意義が著しく弱まる。

所得格差が広がる中「命の沙汰も金次第」とならないように…

浦安市川市民病院の地域での位置づけについての「協議」を経て、5月8日、「答申」が出されました。特徴は、「市民病院の役割を高齢者や小児、救急医療などを重点的に行う。運営は、一部事務組合によって(広域の自治体が一緒に運営する場合、組合をつくって運営)公立病院に変わりはない)ではなく、民営化して補助

金を出すのはいいのではないか」というものです。問題は、所得格差が広がっているもとで、誰もが安心して利用できる、良心的で良質な医療が「民営化」で保障できるかという問題です。「命の沙汰も金次第」とならないよう、一緒に、あらゆる方法でしっかりと声をあげていきましょう。

### 「市政報告会」で意見交換

5月13日(土)夜、日本共産党行徳後援会主催で、「市政報告会」を行いました。谷藤利子市議から、

国民健康保険、介護保険、障害者自立支援法によるサービスについて、保育園増設計画について、

石垣場・東浜地域の環境改善と新たな土地利用、学校・保育園・高齢者や障害者の福祉施設などの公共施設増設について、塩浜護岸と塩浜まちづく

り計画、三番瀬保全との関係について、島尻マンション建設と広尾防災公園に伴う、学校や保育園、高齢者福祉施設について、コミュニティバス実験運行一年延長について、などの報告を行いました。

#### 参加者からは、

介護も医療もこれだけ格差社会といわれている時に、国の言いなりでは困る。市川市としての独自の施策をもっと増やすべきだ。

市民病院は誰でも利用できる医療を保障する病院にしたいといけない。塩浜護岸づくりは大きな津波でも耐えられるように、高さも幅を持たせて、しかも緑の植栽もして自然とのふれあひもできる場にすべきだ。

島尻のマンション林立には驚いた。無計画な開発を野放しにしてはいけない。コミュニティバスはもっと利用してこれからも続けていけるようにしよう。

などなど、たくさん意見が出されました。

